



2021年5月25日

各 位

会 社 名 東京都千代田区永田町二丁目11番1号
アルコニックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 竹井 正人
(コード：3036 東証第一部)
問合せ先 取締役専務執行役員 手代木 洋
コーポレート部門長
TEL 03-3596-7400

中期経営計画策定のお知らせ

当社は、2022年3月期を初年度とする2024年3月期までの3年間の中期経営計画を策定しましたのでお知らせいたします。当社は引続き、経営を取り巻く情勢の変化にスピーディーに対応するため、一年毎に経営計画を見直し、ローリングする方針を採用しております。

① 基本理念

「夢みた未来を描く」

アルコニックスグループは非鉄金属及びその周辺素材、部品、及び製品の取引を通じて新たな価値を創造し、社会の発展に努めます。

② 経営理念(行動規範、価値観)

イ. 法令・企業倫理を順守し、公明正大かつ透明性の高い経営を行い、誠実で信頼されるグループへ成長します。

ロ. 株主、取引先、従業員、地域社会との良好な関係を維持し、「良き企業市民」としての責務を果たします。

ハ. 3R (Reduce、Recycle、Reuse) 関連事業を中核として、資源循環型・環境配慮型社会の発展に貢献するとともに、新たな「環境親和型ビジネス」の創出に挑戦します。

ニ. 高い専門性を持つ人材の育成を図り、活力溢れ、洗練されたグループを目指します。

③ VISION (中期経営方針)

アルコニックスグループは、企業価値を更に高めるため、次のVISION (方針) を掲げ、「商社機能と製造業を融合する総合企業」を目指し、描いた未来を速やかに、確実にカタチとして実現させるために、アルコニックスグループは挑戦し続けます。

イ. 豊かな社会の構築への貢献

ロ. 循環型、環境配慮型社会の構築に貢献

ハ. 商社と製造業の融合による新たな未来の創出に貢献

ニ. ガバナンスの高度化とオペレーションの標準化

④ 経営目標 (数値目標は計画の最終年度である2024年3月期の目標値)

| | | |
|------|---|-----------------------------|
| 利益目標 | 経常利益 | 96億円超 (2022年3月期見通し 64億円) |
| | 当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益) | 67億円超 (2022年3月期見通し 45億円) |
| 経営指標 | ROE | 13~15%程度 |
| | NET DER | 1.0倍程度 |
| 投資計画 | 3年間で250~300億円 ※対象：M&A (現在検討中の案件を含む)、事業投資、 設備投資純増額 (設備投資-償却) | |

※詳しくは、添付資料をご参照ください。

以 上

中期経営計画

2022年3月期～2024年3月期の3カ年計画

事業環境の変化に迅速に対応し、よりスピーディーな意思決定を図るため
期間を3年とする1年毎更新のローリング方式を採用

中期経営計画の全体像

基本理念「夢みた未来を描く」

経営理念（行動規範、価値観）

—中期経営方針「VISION」ビジョン—

商社機能と製造業を融合する総合企業を目指す

①豊かな社会の構築への貢献

②循環型、環境配慮型社会
の構築に貢献

③商社と製造業の融合による
新たな未来の創出に貢献

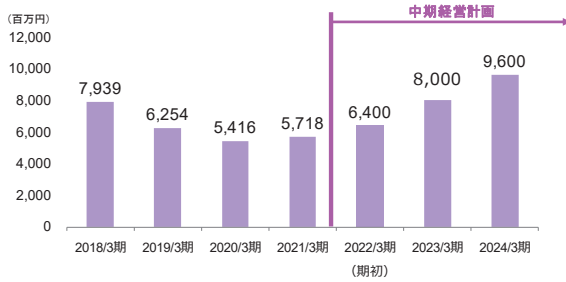
④ガバナンスの高度化と
オペレーションの標準化

取り組むべき課題

アクションプラン

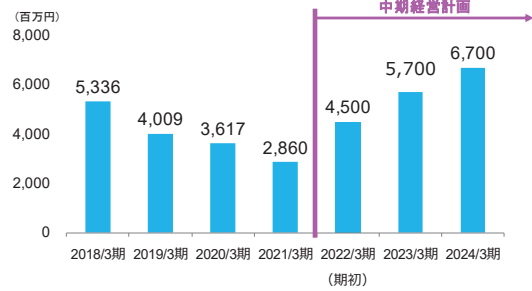
利益目標

連結経常利益：96億円超 (2024年3月期)



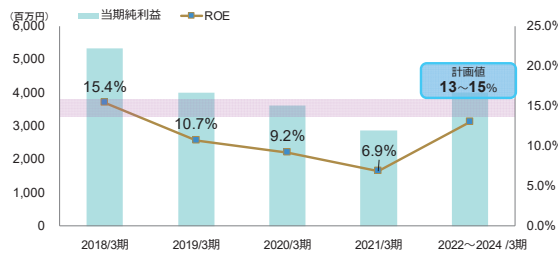
親会社株主に帰属する

連結純利益：67億円超 (2024年3月期)

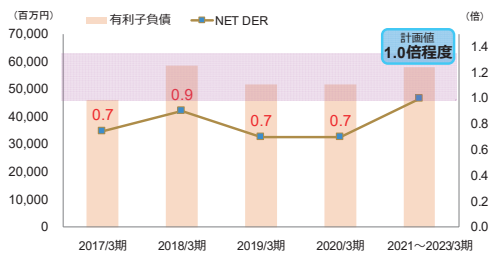


経営指標

ROE：13～15%程度 (2024年3月期)



NET DER：1.0倍程度 (2024年3月期)



投融资計画

3年間で250～300億円

対象：M&A (現在検討中の案件含む) / 事業投資 / 設備投資純増額 (設備投資 - 償却額)

中期経営計画における取り組むべき課題

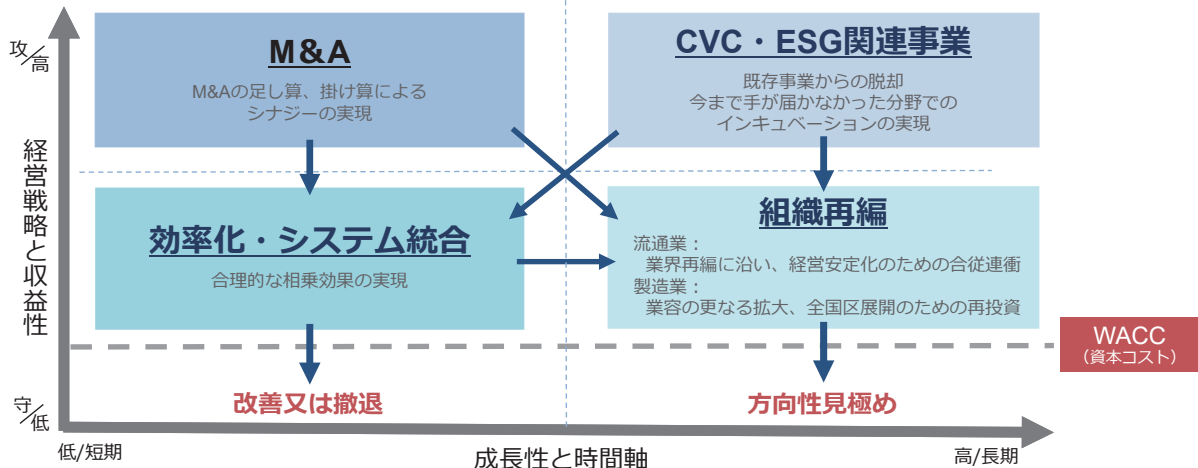
| 課題 | 具体的な施策：実績 |
|--|--|
| 財務体質の強化 <ul style="list-style-type: none"> a. 収益力の強化、及び自己資本比率の向上及び改善 b. ROE10%以上を目指す。中長期的に13～15%を目標 c. 資金調達手段の多様化。グループキャッシュマネジメントシステムを導入し、資金流動性の確保と資金コストの低減を図る | ROE： 直近過去5年平均 10.5% NET DER： 直近過去5年平均 0.7倍台 |
| 人的資源の強化 <ul style="list-style-type: none"> a. 当社、当社グループが必要とする機能を補完・強化する人材を確保 (M&AにおけるPMI (Post Merger Integration) に必要な弁護士、会計士、税理士等の専門的知識、ノウハウを保有する者の採用をさらに推進) b. 総合力を底上げする人事異動、人材交流と人材育成プログラムの強化 c. 生産性向上を目指すための人事体系、評価体系の見直し | 社内公認会計士 (税理士含む) 7名 社内弁護士 2名 その他グループ会社においても複数名の専門職社員在籍 |
| ガバナンスの改善・強化 <ul style="list-style-type: none"> a. 取締役会の継続的改善 b. 取締役会の実効性評価の在り方の見直し c. 内部統制体制、監査体制の充実 (内部統制担当役員の設置と監査部人員の充実) d. 権限移譲と監督機能の強化による意思決定の敏捷性の確保 e. グループ会社ガバナンスの充実・強化のための組織再編を検討 f. グループ会社幹部社員への研修 (コンプライアンス等) を実施 | 内部統制担当役員の選任 (2021年6月より) 2020年秋より当社及びグループ会社にてコンプライアンス研修を継続的に展開 (eラーニング) 他 |

投資戦略の再構築

当社を取り巻く環境が、新型コロナウイルス感染症の影響で不透明・不確実となっている中、次なる分野・柱を創出するために業容拡大に有効な資本提携 (M&A) を継続。新たな商流、分野、及び素材による成長機会の獲得のためCVC (Corporate Venture Capital コーポレートベンチャーキャピタル) の設立・活用を検討。

- a. 製造セグメント子会社における設備拡張投資、生産性向上のための自動化システ等の導入
- b. 環境対応に関連した分野において投融资を絡めた事業の強化。アルミ、銅スクラップの国内ヤードオペレーションに加え、ベースメタルからレアメタル・レアアースまでを含むリサイクル事業のグローバル展開を推進
- c. 投資におけるKPIとしてROIC (投下資本利益率) を重視

アルコニックスグループ投資戦略のポートフォリオ



短期間での業容拡大に有効なM&A、新たな商流を創出するための金属加工事業等への事業投資及びリサイクルを含む資源確保のための投資を重点施策として推進。

M&Aで獲得した主要連結子会社

| | | | |
|--|---|---|--|
|  <p>■アドバンストマテリアルジャパン (商社流通-電子機能材 2004年1月)</p> |  <p>■平和金属 (商社流通-アルミ銅 2015年10月)</p> |  <p>■UNIVERTICAL HOLDINGS INC. (製造-装置材料 2012年12月)</p> |  <p>■大羽精研 (製造-金属加工 2013年5月)</p> |
|--|---|---|--|

M&A実績 19件 (製造に対するM&A 10件 商社流通に対するM&A 9件)

直近実績

■富士根産業 (製造-金属加工)

株式取得日: 2020年12月3日
 製造製品: 空調・冷凍機器部品、自動車部品、IT機器部品、配管部品
 企業規模: 本社 (静岡県) 海外拠点 (タイ)

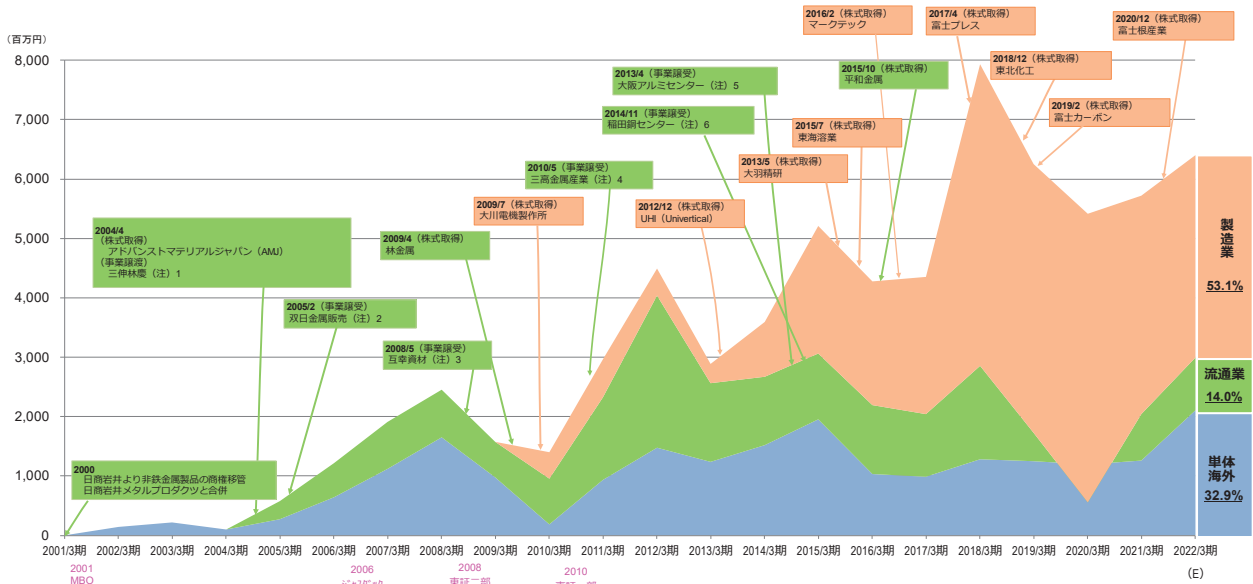


■富士カーボン製造所 (製造-装置材料)

株式取得日: 2019年2月4日
 製造製品: 小型モーター用カーボンブラシ
 企業規模: 本社 (愛知県) 海外拠点 (中国 (台湾、ベトナム、インド))



経常利益でみる事業構造の変化と成長



(注) 1 三伸林慶は事業譲受後、当社の三伸林慶部としてスタート。その後2008年に分社化し、アルコニクス三伸として独立
 2 双日金属販売は当社非鉄原料本部材料部としてスタート。
 3 互幸資材はアルコニクス三伸によるM&Aで札幌支店互幸資材営業部として設立。
 4 三高金属産業の事業譲受後、当社が設立したアルコニクス・三高に承継
 5 大阪アルミセンターは2014年に「アルミ銅センター」に社名変更
 6 福田銅センターの事業譲受後、アルミ銅センターの北九州支店として承継
 7 「製造業M&A」には持分法適用関連子会社を含む。
 8 2001/3月は単体のみで経常損失
 9 2020/3月は流通業が経常損失(△4.8%)

| | | |
|---|---|---|
| <p>商社機能と製造業のシナジー</p> <p>商社機能と製造業を融合 ビジネスミックス</p> <p>商社流通 X 製造</p> <p>電子機能材料 アルミ銅</p> <p>装置材料 金属加工</p> | <p>電子材料部材</p> <p>原料から材料・製品まで</p> <p>IoT / 5G 半導体ブーム</p> <p>電子材料/電子部品</p> <ul style="list-style-type: none"> 5Gの普及 次世代自動車 AIやIoTの深化 <p>半導体</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車・家電のIoTロジック化加速 大容量・高速化 <p>自動車</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気自動車 (EV) ハイブリッドカー 燃料電池車 (FCV) <p>市場変化・技術に対応</p> | <p>海外事業展開</p> <p>独自の海外ネットワーク</p> <p>当社の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 貿易比率が高い 輸出入・三国間取引の増大 海外12法人 15拠点 |
| <p>強化① 商社機能と製造業のシナジーによる 営業収益力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 資金の流動性 財務健全性の確保 顧客の共有化 営業強化・ソリューション提供 人的交流・技術交流 事業の拡充 | <p>強化② 3事業を重点分野として 引き続き強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 当社グループの飛躍的成長の原動力となった3事業を重点分野として引き続き強化 <ul style="list-style-type: none"> 電子部品関連分野 半導体関連分野 自動車関連分野 | <p>強化③ グループ全体で ネットワークの拡大推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地場取引拡大 三国間ビジネスを拡大 海外拠点の設立を推進 |

● インフラ整備及び内部統制の充実・強化

- B I / R P Aの導入を含め、基幹システムの有効活用とスピード感のある内部統制の充実
- 当社グループの会計制度整備とレベルアップ
- 自然災害や感染症等を想定したテレワーク、遠隔勤務に備えたBCPプランの策定及び充実を図り同時にシステムイノベーションを検討
- 適時開示体制の徹底と、コンプライアンス教育のグループ全体への浸透
- M&Aにより子会社化したグループ会社へのPMIの実施、コンプライアンス体制の構築



当社のESG/SDGsへの取り組み

ESG課題に取組み、社会的責任を果たすことで更なる企業価値の向上を目指す。

【アルコニックスの取り組みその一例】

| | |
|---|---|
| <p>環境 Environment</p> <p>【商社流通事業】</p> <p>■ 非鉄スクラップリサイクル</p> <p>高いリサイクル性を持つアルミ・銅スクラップを回収・リサイクルして再生原料として製錬メーカーに販売。</p> <p>■ レアメタル・レアアースの取引</p> <p>ハイブリッド車等のエコカーに不可欠なレアアース、LEDの主原料となるガリウム等のレアメタルの販売。</p> <p>エネルギー資源の低減に貢献</p> <p>【製造事業】</p> <p>■ 天然由来の原料を使用した製品の製造</p> <p>カシューナッツの殻から抽出した殻液を主原料とした自動車のブレーキ用摩擦調整材料を製造。 ※東北化工（製造・装置材料）にて製造</p> <p>環境負荷の軽減とクリーンな社会の実現</p> | <p>ガバナンス Governance</p> <p>■ 多様な経歴・スキルを持つ社外役員の登用</p> <p>取締役会の活性化、迅速かつ的確な意思決定により更なる企業価値の向上を実現。 (社外役員構成：社外役員6名) 外交官、企業経営者、公認会計士 弁護士</p> <p>■ 投資家との建設的な対話（IRの充実）と株主還元の充実（継続的かつ安定的な配当）</p> <p>社会 Social</p> <p>■ 女性活躍推進と、多様性に対応したダイバーシティ・グローバル人材の育成強化</p> <p>■ グループ会社の大川電機製作所（製造-金属加工）が経済産業省から「地域未来牽引企業」*として選定 ⇒ 地域雇用産業育成が認められる</p> <p>* 地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれるとともに、地域経済をリードする中核企業。</p> |
|---|---|